

初期成長に優れるスギエリートツリー大苗を活用した下刈作業省力モデル 林業研究センター

植栽初期の成長が早いスギ“エリートツリー”の大苗を皆伐跡地に植栽し、従来型植林と比較できるモデル林を造成、下刈り回数低減による低コスト再造林を実証しています。

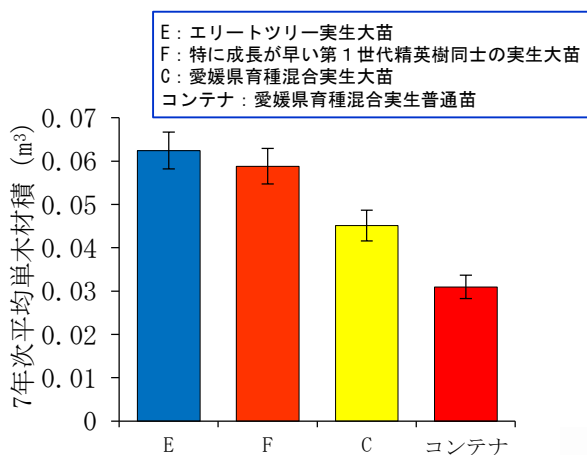
【研究内容】

どうしたら再造林コストの1/3を占める下刈りを減らせるのか

◎ 皆伐跡地に苗高約1mのスギ大苗と苗高約30cmのスギコンテナ苗を植栽し、毎年樹高を測定しています。年下刈りは、大苗区（E、F、C）では、第2成長期の夏に1度だけ、コンテナ苗区では植栽後4年間毎年行いました。



第5成長期経過後



幹材積の比較 (7成長期経過後)

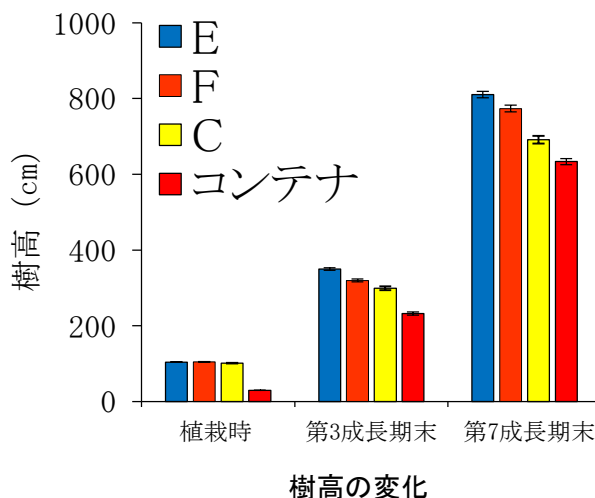
幹材積の算出には、森林総合研究所「幹材積計算プログラム」を使用した。



第6成長期経過後



コンテナ苗区 (毎年下刈)
第5成長期末の林況



樹高の変化



エリートツリー区 (下刈省略)
第5成長期末の林況

樹高は、第2成長期以降にエリートツリー区が有意に高くなりました。第2成長期末時点で平均213cm、第3成長期末時点では平均350cmと、3年で下刈りが不要な大きさとなり、下刈りは1度で済みました。なお、第7成長期末時点では平均樹高810cm、ha当たり材積93m³/haとなりました。

【今後の展望】

今後、エリートツリー種苗の流通が進むと思われませんが、エリートツリーの普及促進のためには、実生の立木の木材強度特性の解明を図る必要があります。